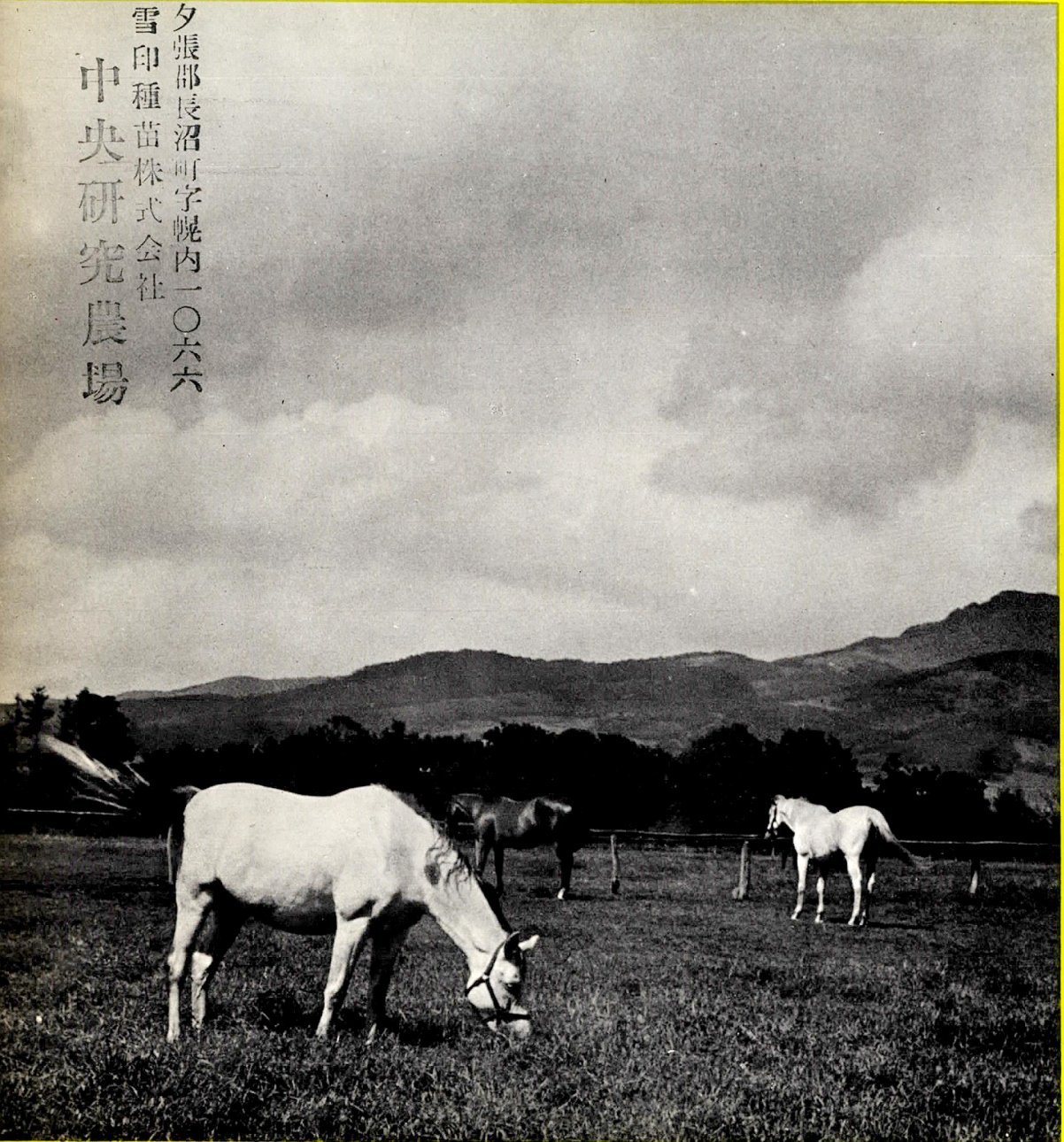


# 藝園草牧

夕張郡長沼町字幌内一〇六六  
雪印種苗株式会社

中央研究農場



雪印種苗株式会社

# 牧草の害虫 (II)

酪農学園大学講師 坂本与市

## ケチビコフキゾウムシ

本種は全国に分布する。幼虫はクロバー類の根を、成虫は葉を加害する。牧草の根際に潜んで冬を越した成虫は春になると活動をはじめ、まもなく産卵を開始する。産卵は地表面や茎の根際になされ、卵は約30日で孵化する。幼虫は土中にもぐって根を食害する。札幌地方においては7月上旬から被害が目立ち、特に古い畑の赤クロバーは株全体が枯死する場合がみられ、株を掘りおこしてみると、すでに蛹化した本種を数多く見ることができ、新成虫は7月下旬から羽化し、8月から9月にかけて最も多く出現する。秋にもクロバー類を加害し、11月にはいと土中にもぐり越冬に入る。



## ケチビコフキゾウムシ



## ツメクサガ



## ツメクサガ

わが国各地に発生し、幼虫はクロバー類の他に大小豆、ビート、ルーサンなどを加害する。北海道では年2回の発生で、1回目の幼虫は7月頃、2回目の幼虫は9月から10月上旬にかけて加害が著しい。特に2回目の幼虫は赤クロバーの花を好んで食害する。幼虫の体長は3cm位に達し、緑色で胴部に数条の淡色縦線が走るのので他のヤガ科の幼虫と容易に区別できる。蛹態で牧草地の土中に越冬する。



## ハマキガ類

クロバーやルーサンなどを加害するハマキガ類は数種がある。なかでもアトハマキ、スジトビハマキ、ホソパハイロハマキなどがよく知られている。一般に葉を数枚綴って、その中に棲んで若芽や葉などを食害する。北海道では6月下旬頃から被害がみられ、特に山間部の牧草地の被害が著しい。写真はルーサンを綴っているアトハマキの幼虫である。

## ハマキガ類

